

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

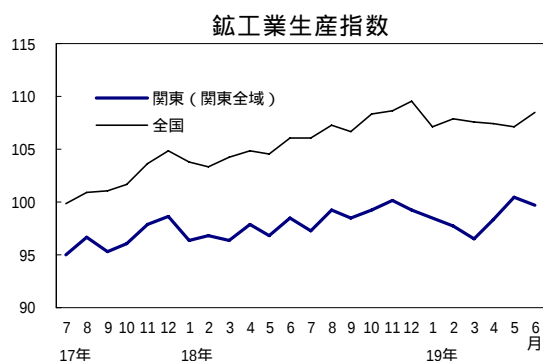
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が前期の反動で減少したものの、韓国・台湾向けの半導体製造装置が好調であったため、増加している。化学は、化粧品などに使う酸化プロピレンは減少したものの、フェノールなどの樹脂原料が好調であったため、増加している。輸送機械は、普通乗用車は堅調であったものの、小型自動車が減産の影響で振るわなかったため、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、テレメーターやテレコントロールなどの遠隔自動データ収集装置に動きが見られたことから、増加している。電気機械は、医療用X線装置が前期の反動で振るわなかったため、減少している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年6月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	13.8	▲1.5	2.4	2.4	2.0
化学	13.7	▲5.7	4.1	4.7	▲6.1
輸送機械	11.3	▲4.8	1.0	▲2.8	0.7
情報通信機械	8.6	3.4	4.1	0.4	▲0.1
電気機械	7.9	▲4.4	▲1.1	0.1	▲9.4
鉱工業	100.0	▲1.9	1.9	2.1	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

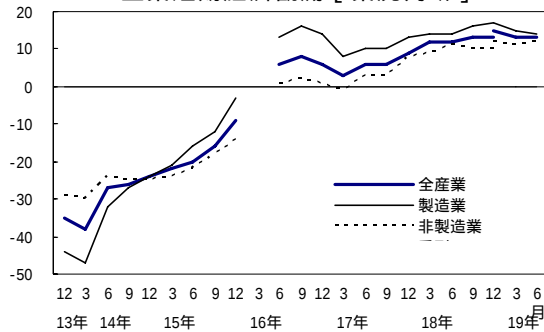
2. 4～6月期は速報値。

3. 4～6月期の化学の生産、出荷は、4月、5月確報値の平均より算出。在庫は、5月確報値。

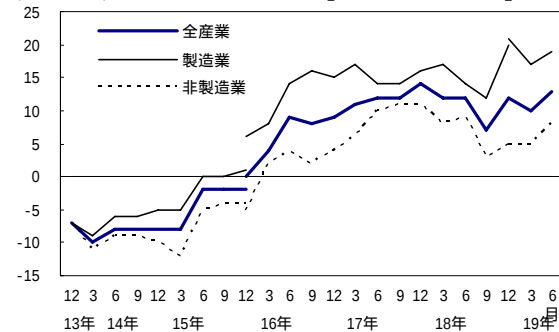
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

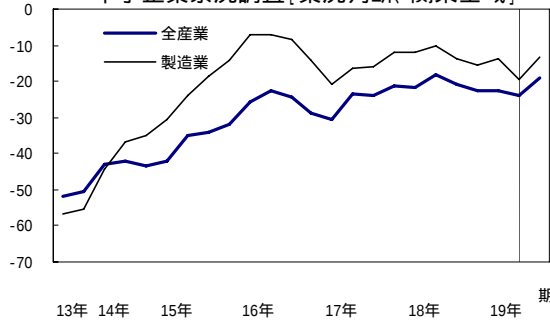
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査[業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「大手の客が原料値上がり分の価格転嫁を受け入れてくれたので成績は良いが、受注量は先月よりやや減少している(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

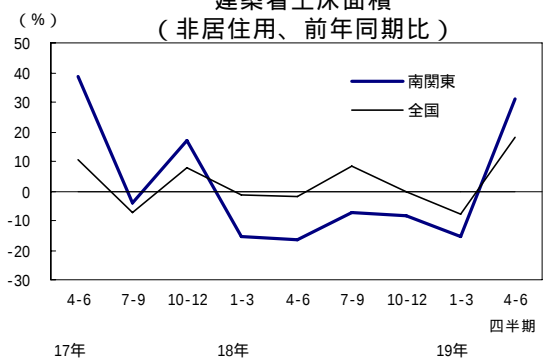
企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	8.8(0.6)	0.7(6.8)
製造業	14.0(1.9)	▲2.3(8.5)
非製造業	▲4.7(▲3.3)	9.9(2.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

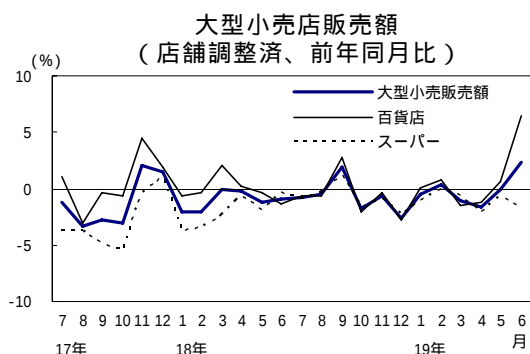
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、百貨店は、4月は改装・催事効果等により飲食料品に動きが見られたが、天候不順により春・初夏物衣料品が不調で2か月連続で前年を下回った。5月は気温が高めで日傘、帽子、サングラス等の身の回り品やUVケア化粧品が好調で、前年を上回った。6月は好天だったこととバーゲンの前倒しにより、婦人ワンピース、冷房対策用ニット等の夏物衣料品、UVケア関連の身の回り品が好調で2か月連続で前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の売上高は前年同月比3.9%減となっている。

スーパーは、国産ビール、総菜等の飲食料品が好調だったものの、衣料品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「ポイントアップキャンペーン等のイベントにより来客数は増えているが、ボーナス月にしてはあまり単価に動きが見られない(その他専門店[雑貨])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

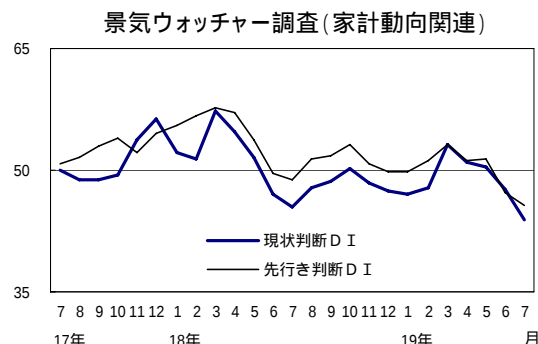
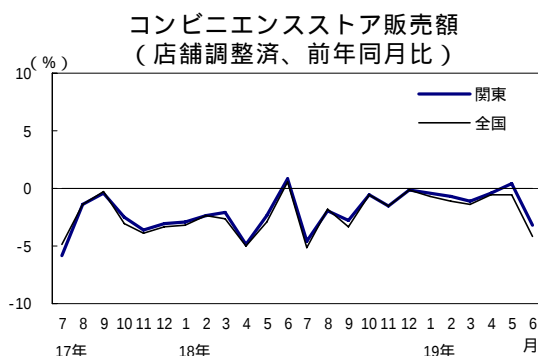


(前年同期比、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	0.1	▲1.8	▲0.4	0.2
百貨店	0.4	▲1.8	▲0.3	2.0
スーパー	▲0.1	▲1.7	▲0.6	▲1.4
コンビニ	▲3.1	▲0.7	▲0.7	▲1.1
景気ウォッチャー	47.3	48.7	49.4	49.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計でみると前年度を上回っている。

